

## 土地の契約

### 聖書箇所: 申命記 30 章 1-10 節

- 30:1 私があなたの前に置いた祝福とのろい、これらすべてのことが、あなたに臨み、あなたの神、主  
があなたをそこへ追い散らしたすべての国々の中で、あなたがこれらのことを心に留め、
- 30:2 あなたの神、主に立ち返り、きょう、私がおあなたに命じるとおりに、あなたも、あなたの子ども  
たちも、心を尽くし、精神を尽くして御声に聞き従うなら、
- 30:3 あなたの神、主は、あなたを捕われの身から帰らせ、あなたをあわれみ、あなたの神、主がそこ  
へ散らしたすべての国々の民の中から、あなたを再び、集める。
- 30:4 たとい、あなたが、天の果てに追いやられていても、あなたの神、主は、そこからあなたを集め、  
そこからあなたを連れ戻す。
- 30:5 あなたの神、主は、あなたの先祖たちが所有していた地におあなたを連れて行き、あなたはそれを  
所有する。主は、あなたを榮えさせ、あなたの先祖たちよりもその数を多くされる。
- 30:6 あなたの神、主は、あなたの心と、あなたの子孫の心を包む皮を切り捨てて、あなたが心を尽く  
し、精神を尽くし、あなたの神、主を愛し、それでおあなたが生きるようにされる。
- 30:7 あなたの神、主は、あなたを迫害したあなたの敵や、あなたの仇に、これらすべてののろいを下  
される。
- 30:8 あなたは、再び、主の御声に聞き従い、私が、きょう、あなたに命じる主のすべての命令を、行  
なうようになる。
- 30:9 あなたの神、主は、あなたのすべての手のわざや、あなたの身から生まれる者や、家畜の産むも  
の、地の産物を豊かに与えて、あなたを榮えさせよう。まことに、主は、あなたの先祖たちを喜  
ばれたように、再び、あなたを榮えさせて喜ばれる。
- 30:10 これは、あなたが、あなたの神、主の御声に聞き従い、このみおしえの書にしるされている主の  
命令とおおきてとを守り、心を尽くし、精神を尽くして、あなたの神、主に立ち返るからである。

## 1 イントロダクション

1. 前回の復習：モーセ契約
  - (1) 神はエジプトとカナン地の間にあるシナイ山でイスラエルと「モーセ契約(シナイ契約)」  
を結ばれた。
  - (2) モーセ契約は、モーセの律法を守れば祝福が、違反すれば裁きが下るといふ条件付契約(片  
務契約)であった。
  - (3) モーセ契約がお与えられた究極的な目的は、イスラエルの民をメシアへと導くことであった。
2. 神がイスラエルにお与えられた土地の約束
  - (1) 神はアブラハム、イサク、ヤコブに「カナン地」をお与えることを約束された(創 13:14-17;

15:18-21)。

- (2) 「カナン」は、現代のパレスチナ（ユダヤ人やクリスチャンは「イスラエル（の地）」と呼ぶこともある）を含んでいる。ここではその地を指して「約束の地」と呼ぶ。
- (3) 創世記 15:18-21 でアブラハムとその子孫に約束された土地は「エジプトの川から……ユーフラテス川まで」であり、今のエジプト、レバノン、シリア、イラクそれぞれの一部をも含む。現在のイスラエル国の領土よりも非常に広範囲である。
- (4) 歴史上、ユダヤ人たちはこの範囲を全て領土としたことはない<sup>1</sup>。

### 3. 土地の約束を学ぶことは重要である。

- (1) これは聖書に書いてある約束である。聖書に書かれていることは、信者にとって全て重要である。
- (2) ユダヤ人と中東の関わりについて、信者は聖書的視点を持つ必要がある。信者は世界のためにとりなしをするが、その中には中東地域も含まれている。中東問題の大きなテーマはイスラエルという国家の存在である。ユダヤ人と約束の地の歴史的繋がりを聖書から学ぶことは、重要である。
- (3) この約束は終末論に大きく関わる。土地の約束を知り、その成就を信じることは、イエスの再臨への確信を深めることに繋がる。

## 2 土地の契約について

1. 「土地の契約<sup>2</sup>」は、神がイスラエルと結ばれた「無条件契約」のひとつである。
  - (1) 2016年9月24日の天笠長老のメッセージでは、申命記 29:1-30:20 に記されている「土地の契約」は神がイスラエルと結ばれた「無条件契約」の一つであると教えられた。
  - (2) 引用：この契約では、イスラエル民族は不信仰の故に、世界中へ散らされる離散の民となることが預言されている。しかし、やがて不信仰を悔い改め、メシアが戻ってこられると、再び集められて約束の地を所有するようになると約束されている。

---

<sup>1</sup> Arnold G. Fruchtenbaum, *The Footsteps of the Messiah: A Study of the Sequence of Prophetic Events*, revised ed. (San Antonio, TX: Ariel Ministries, 2003) 420-23; Michael Rydell, *Understanding the Arab-Israeli Conflict: What the Headlines haven't Told You*, revised ed. (Chicago, IL: Moody Publishers, 2007) 154-55; Gregory H. Harris, "Did God Fulfill Every Good Promise?: Toward a Biblical Understanding of Joshua 21:43-45," *The Master's Seminary Journal*, 23(1) (Spring 2012) 63-64.

<sup>2</sup> 「土地の契約」を神がイスラエルと結ばれた無条件契約のひとつと考える人々の間では、この契約の呼び方に相違がある。広く見られる呼称は「パレスチナ契約 the Palestinian Covenant」(Lewis Sperry Chafer, *Major Bible Themes*, revised ed., John F. Walvoord, rev. [Grand Rapids, MI: Zondervan, 1974] 144-45) や「申命記契約 the Deuteronomic Covenant」(Ronald E. Showers, *There Really is a Difference: A Comparison of Covenant and Dispensational Theology* [Bellmawr, NJ: The Friends of Israel Gospel Ministry, Inc., 1990] 77-83; William D. Barrick, "The Mosaic Covenant," *The Master's Seminary Journal*, 10[2] [Fall 1999] 214) などである。「土地の契約 the Land Covenant」という呼称は、Fruchtenbaum によって提唱されている (*Israelology: The Missing Link in Systematic Theology*, revised ed. [Tustin, CA: Ariel Ministries, 1993] 581)。

- (3) 今回はこの「土地の契約」を詳しく学び、イスラエルと約束の地の関係について考える。

## 2. 申命記の概要

- (1) 創世記～申命記をひとまとめにして「モーセ五書 Pentateuch」という。伝統的に、これらの5つの書の著者はモーセだとされており、元々はその一つの書物であった。
- (2) イスラエルの民は神の恵みによりエジプトから脱出した（出エジプト記）。
- (3) 荒野を歩いて約束の地へ向かう間、神の恵みを体験し、詳しいみおしえ（律法）が与えられてきた（レビ記）。
- (4) しかし、民は約束の地に入ることを恐れ、拒否した。その結果、約束の地に入ることを拒否した世代が死に絶えるまでの40年間、荒野を放浪することになった（民数記）。
- (5) 申命記は、新しい世代が遂に約束の地に入ろうとする直前に、モーセによって語られたメッセージを収めたものである。
- (6) 新しい世代は、出エジプトを体験していない。モーセは、これまでの歴史を新しい世代に教え、シナイ山で与えられた律法について改めて教えている。
- (7) 申命記29-30章は、それまで歴史の回顧や律法の解説が述べられた後、イスラエル民族の将来についてモーセが語っている箇所である。

## 3. 「土地の契約」は1つの契約と考えて良いのか？

- (1) この点については、神学者の間で見解の相違が生じている。私は、これは1つの契約だと考えている。
- (2) 申命記29:1<sup>3</sup> これは、モアブの地で、主がモーセに命じて、イスラエル人と結ばせた契約のことばである。ホレブで彼らと結ばれた契約とは別である。
- (3) 「モアブの地」とは、今モーセたちがいる、ヨルダン川の東側の地である（申1:5）。「ホレブ」とは、前回学んだモーセ契約が結ばれたシナイ山の別名である。
- (4) これをふまえて日本語訳で29:1を素直に読めば、「モアブの地で結ばれたこの契約は、モーセ契約とは別である」という風に読める。
- (5) 29:1は28章までの内容にかかっているのか、それとも29:2以降にかかっているのかという議論がある。もし28章までにかかっているのなら、それまではモーセの律法の再確認がされてきたのだから、29:2-30:20の内容もモーセの律法への「付け加え」だということになる。
- (6) しかし、申命記では29:1のような言い回しが出てくるときは、次の話題に移る時である（4:45および5:1参照）<sup>4</sup>。

---

<sup>3</sup> マソラ本文や七十人訳聖書では28:69である（日本語訳では、新共同訳において28:69となっている）。

<sup>4</sup> Fruchtenbaum, "The Land Covenant," *Progressive Dispensationalism: An Analysis of the Movement and Defense of Traditional Dispensationalism*, Ron J. Bigalke Jr., ed. (Lanham, MD: University Press of America, 2008) 89.

Cf. C. F. Keil and F. Delitzsch, *Biblical Commentary on the Old Testament*, Vol. III, trans., James Martin (Edinburgh: T&T Clark, n.d.) 446.

- (7) また、古代中東の「契約」の形式から見ると、29:1 が契約の冒頭の言葉と捉えた方がよく当てはまる<sup>5</sup>。
- (8) つまり、29:2 からの内容が「モアブの地で、主がモーセに命じて、イスラエル人と結ばせた契約のことば」であり、「ホレブで彼らと結ばれた契約とは別」なのである<sup>6</sup>。

#### 4. 契約の特徴：呪いと祝福

- (1) 土地の契約の特徴のひとつは、「呪い」である。

29:12 あなたが、あなたの神、主の契約と、あなたの神、主が、きょう、あなたと結ばれるのろいの誓いとに、入るためである。

- (2) この「呪い」とは、イスラエルがモーセの律法を守らなければ呪われるということである。

29:24 すべての国々は言おう。「なぜ、主はこの地に、このようなことをしたのか。この激しい燃える怒りは、なぜなのだ。」

29:25 人々は言おう。「それは、彼らの父祖の神、主が彼らをエジプトの地から連れ出して、彼らと結ばれた契約を、彼らが捨て、

29:26 彼らの知らぬ、また彼らに当てたのでもない、ほかの神々に行って仕え、それを拝んだからである。

29:27 それで、主の怒りは、この地に向かって燃え上がり、この書にしるされたすべてののろいが、この地にもたらされた。

29:28 主は、怒りと、憤激と、激怒とをもって、彼らをこの地から根こぎにし、ほかの地に投げ捨てた。今日あるとおりに。」

- (3) モーセは、これを預言として語っている。つまり、イスラエルがモーセの律法を捨て、不従順の故に裁かれるということは、確実なことなのである。
- (4) もうひとつの特徴は「祝福」である。聖書朗読で読んだ 30:1-10 では、イスラエルが神に立ち返り、祝福されることが語られている。
- (5) モーセの律法に従わなかったから呪われる、それに聞き従うときに祝福される、ということ

<sup>5</sup> K・A・キッチン『古代オリエントと旧約聖書』津村俊夫訳（いのちのことば社、1979年）122-34頁；Fruchtenbaum, “The Land Covenant,” 90.

<sup>6</sup> 学者によっては、「別」という言葉を「付け加えられた」という意味として捉えている者もある（John H. Sailhamer, *The Pentateuch as Narrative: A Biblical-Theological Commentary* [Grand Rapids, MI: Zondervan, 1992] 471）。七十人訳聖書では「別」には *plēn* という副詞が訳語として当てられており、これには「前の語を制限する、もしくは発展・拡張させる役割」がある（Joseph H. Thayer, *Thayer's Greek-English Lexicon of the New Testament: Coded with Strong's Concordance Numbers*, 11<sup>th</sup> Printing [Peabody, MA: Hendrickson Publishers, 2014(1986)] G4133）。すなわち、七十人訳の訳者は「別」という表現を「付け加えられた」という意味で捉えているものと考えられる。

原文では「別」という言葉はヘブライ語の前置詞 *min* と副詞（あるいは名詞）*bad* によって表現されている。前者の *min* には分離、離脱という概念がある（F. Brown, S. Driver, C. Briggs, *The Brown-Driver-Briggs Hebrew and English Lexicon: Coded with Strong's Concordance Numbers*, 15<sup>th</sup> Printing [Peabody, MA: Hendrickson Publishers, 2014(1906)] H4480）。また、*bad* には「何かから延長された；拡張された」という概念もあるが、第一義的には分離、独立といった概念を持った単語である（*Brown-Driver-Briggs*, H905）。したがって、この表現を日本語で「別」と訳されている通りに受け取ることは十分に可能であるものと考えられる。

では、土地の契約はモーセ契約とよく似ている。

- (6) しかし、この契約では、むしろ「イスラエルの民は律法に不従順なために呪われるが、最後は神に従順になり、祝福される」という約束が与えられているのである。その点では、土地の契約はモーセ契約とはかなり異なっていることがわかる。

### 3 契約の内容

1. メッセージの大きく関係する契約の内容だけを確認していきたい。より詳しくは、申命記 29-30 章を読んでいただきたい。

2. 契約の内容は以下の通りである。

- (1) イスラエルはモーセの律法を守らず、それ故に裁きを受ける。そして、彼らは約束の地から世界中に散らされてしまう。

29:28 **主は、怒りと、憤激と、激怒とをもって、彼らをこの地から根こぎにし、ほかの地に投げ捨てた。今日あるとおりに。**

30:1 **私があなたの前に置いた祝福とのろい、これらすべてのことが、あなたに臨み、あなたの神、主があなたをそこへ追い散らしたすべての国々の中で、あなたがこれらのことを心に留め、**

- (2) しかし、イスラエルは将来悔い改める (30:1-2)。彼らは主によって散らされた国々の中で悔い改め、「心を尽くし、精神を尽くして御声に聞き従う」ようになる<sup>7</sup>。

- (3) イスラエルは霊的に新しくされた後で約束の地に集められ、その地を所有するようになる (30:5-6)。彼らが霊的に回復するのは、努力によるものではなく、神の恵みが働かれることによるものである。

3. 契約の内容はどのようにになっているのか？

- (1) バビロン捕囚を経験した預言者エゼキエルは、世界に散らされたイスラエルが将来再び集められることを預言している。

エゼ 11:17 **それゆえ言え。『神である主はこう仰せられる。わたしはあなたがたを、国々の民のうちから集め、あなたがたが散らされていた国々からあなたがたを連れ戻し、イスラエルの地をあなたがたに与える。』**

---

<sup>7</sup> 新改訳第三版や新共同訳では、この祝福には「私があなたに命じるとおりに、あなたも、あなたの子どもたちも、心を尽くし、精神を尽くして御声に聞き従うなら」と、条件が課せられているように読める。しかし、NASB、NIV、ESV などの多くの英語訳では条件・仮定が見出されていない。Sailhamer は、この箇所を条件・仮定ではなく将来のある時点で起こる出来事として捉えている (*The Pentateuch as Narrative*, 473)。Cf. Fruchtenbaum, *Israelology*, 582; Michael J. Vlach, *Has the Church Replaced Israel?: A Theological Evaluation* (Nashville, TN: B&H Publishing Group) 177-78.

さらに、イスラエルの民が約束の地に集められるときには、彼らが霊的に新しくされ、それによって神に従順な民とされることも預言されている。

エゼ 11:19-20 わたしは彼らに一つの心を与える。すなわち、わたしはあなたがたのうちに新しい霊を与える。わたしは彼らのからだから石の心を取り除き、彼らに肉の心を与える。それは、彼らがわたしのおきてに従って歩み、わたしの定めを守り行なうためである。こうして、彼らはわたしの民となり、わたしは彼らの神となる。

- (2) イエスご自身は、イスラエルの民の最終的な帰還がご自身の再臨のときに成就するのだと預言された。

マコ 13:26-27 そのとき、人々は、人の子が偉大な力と栄光を帯びて雲に乗って来るのを見るのです。そのとき、人の子は、御使いたちを送り、地の果てから天の果てまで、四方からその選びの民を集めます。<sup>8</sup>

- (3) イスラエルは必ずアブラハム、イサク、ヤコブに与えられた約束の地を受け継ぎ、「神の祭司」という役割を果たす僕として霊的にも回復される。

#### 4 私たちは土地の契約から何を学ぶのか

##### 1. 神の契約は確かである。

- (1) 土地の契約の中でモーセが語った通り、イスラエルは不従順に陥った。
- (2) モーセの時代から数百年経ったとき、彼らは神の裁きを受け、当時の大国であるアッシリヤやバビロンによって民族の多くが国外へ散らされた。
- (3) イエス時代の数百年前、国外へ散らされたユダヤ人の一部は約束の地へ帰還する。しかし、帰還した人々もまた律法に背き、律法が指し示していたメシアを拒否した。
- (4) その結果、さらなる裁きが下り、エルサレムは崩壊し、ほとんどのユダヤ人が文字通り世界中へ散らされた。
- (5) 土地の契約の「呪い」は成就した。神の契約は確かなものである。

##### 2. 神はイスラエルを約束の地で回復される。

- (1) 神の契約が確かなものであるから、ユダヤ人が約束の地に集められ、霊的に新しくされるといふことも確かである。
- (2) 神はイスラエルが約束の地に入る前から（そしてアブラハム契約において既に）、彼らがその地を相続するという契約を与えられた。
- (3) さらに、土地の契約では、イスラエルの最終的な帰還のときに、彼らが霊的に回復されるといふことも約束されている。

---

<sup>8</sup> 以下の文献では、このイエスの教えが申命記 30:4「たとい、あなたが、天の果てに追いやられていても、あなたの神、主は、そこからあなたを集め、そこからあなたを連れ戻す」をふまえたものであるということが指摘されている。Fruchtenbaum, "The Land Covenant," 96; Rikk E. Watts, "Mark," *Commentary on the New Testament Use of the Old Testament*, G. K. Beale and D. A. Carson, eds. (Grand Rapids, MI: Baker Academic, 2007) 227-29.

- (4) これらのことは、イエス・キリストが再臨されるときに完全に成就する。
  - (5) イスラエルの民と約束の地とが深い繋がりにあるということは、過去の視点からも、未来の視点からも明らかである。
3. 信者の「希望」の土台はイエス・キリストの再臨である。
- (1) 今の私たちにも、神の御心通りの、理想的な世界が実現すれば良いのという思いがある。
  - (2) 聖書は世界がそのように変えられることを約束しているが、それもまたイエスの再臨によって実現される。
  - (3) 聖書に約束されているあらゆる「希望」の土台は、イエスの再臨にある。

## 5 今月の祈り課題

ハーベスト・タイム・ミニストリーズ『月刊ハーベスト・タイム』2016年12月号、6頁より

国連教育科学文化機関(ユネスコ)の加盟国 58 か国は、パレスチナが理事会に提出した「エルサレム旧市街の西壁と神殿の丘はユダヤ教と歴史的な結びつきはない」とする決議案を承認するため、投票を行った。投票は24か国が賛成、6か国が反対で可決されたが、26か国という前例のない数の国が棄権した。外交の専門家は、この決議はパレスチナにとって中身の無い勝利であり、イスラエルにとって悲劇ではないと話しているが、史実を否定する暴挙であることは確かである。イスラエルに敵対する人々の目が聖書の真理に対して開かれるように祈ろう。(ICJE)

1. これは具体的には、パレスチナ自治政府が提出した「エルサレムをイスラムの名称のみで明記し、イスラムの聖地を“占領”政策を続けるイスラエルが、妨害している」という内容の報告書が、ユネスコで承認されたというニュースである。事実としては、「ユネスコの事務総長や、理事長、国連のパン事務総長も、神殿の丘は、イスラムだけでなく、ユダヤ教、キリスト教、皆に重要な地と認識すべきであるとして、この報告に反対する意見を表明していた」<sup>9</sup>。
2. 国連では1967年の六日戦争以降、イスラエルの支配下に入ったとされる西岸地区にあるユダヤ人入植地を違法とする安保理決議2334号が2016年12月23日に採択される<sup>10</sup>など、反イスラエル国家的な姿勢がますます強くなっている<sup>11</sup>。

<sup>9</sup> 石堂ゆみ「UNESCO:『イスラムのエルサレム』報告書を正式承認へ」『オリーブ山便り』(2016年10月19日、<http://mtolive.blog.fc2.com/blog-entry-1480.html>) (2017年1月22日閲覧)

<sup>10</sup> United Nations Security Council, “Resolution 2334 (2016),” [http://www.un.org/en/ga/search/view\\_doc.asp?symbol=S/RES/2334\(2016\)](http://www.un.org/en/ga/search/view_doc.asp?symbol=S/RES/2334(2016)) (accessed 2017-01-22)

<sup>11</sup> 明石清正「国連安保理、イスラエル非難決議を採択 米国棄権 ③」『ロゴス・ミニストリーのブログ』(2016年12月29日、<http://www.logos-ministries.org/blog/?p=7763>) (2017年1月22日閲覧)

この背後には、ユダヤ人とイスラエルの地の歴史的結びつきの否定が見え隠れしている。

3. 私たちクリスチャンは、「ユダヤ人とイスラエルの地」に関する議論について、世の人々が持つものとは別の視点を持っていなければならない。それは「聖書はどう語っているか」という視点である。
  - (1) 申命記 29-30 章によれば、ユダヤ人と約束の地との関係は明らかである。
  - (2) 彼らは今、全世界に散らされている状況にある。しかし、現状がそうだからといって、彼らと約束の地の結びつきを否定することは、聖書の教えとは言い難い。
  
4. このことについて、祈っていく必要を覚えさせられている。
  - (1) 私たちは、世界中のあらゆる人々が福音を受け入れるよう祈り、伝道していかなければならない（マタ 28:18-20）。
  - (2) その中でも、イスラエルは私たち異邦人の「隣人」である。神が愛しておられるイスラエルが離散という裁きの中にあるからこそ、ひとりでも多くのユダヤ人が神に立ち返るよう祈っていききたい。イエスの再臨にこそ民族の希望があると、ひとりでも多くのユダヤ人に気づいてほしい。
  - (3) そして、ユダヤ人やイスラエル国に敵対する人々にもまた、神がユダヤ人を愛しておられ、イエス・キリストが来られるときにイスラエル民族を回復されるのだということに目が開かれてほしい。
  - (4) そのためには、彼らがイエスを受け入れることを祈っていく必要がある。
  
5. 全ての問題を包み込むイエス・キリストの愛
  - (1) ユダヤ人の不従順の問題、また異邦人による反ユダヤ主義の問題が最終的に解決するのは、イエスが再臨される時である。
  - (2) 私たちは再臨の時を待ち望むと同時に、この地上においてイエスの愛がユダヤ人の不従順と反ユダヤ主義とを包み込むことを願ってやまない。
  - (3) そして、私たちは、ユダヤ人信者と異邦人信者から成る教会が、この世においてイエスの愛の証人となることができるよう、祈り実践していくよう招かれているのではないだろうか。
  - (4) ユダヤ人も、ユダヤ人を敵視する人々も、ひとりでも多くの者がキリスト・イエスに立ち返るよう、祈ろうではないか。